

個別事業(取組)評価				
事業No,	29	施策の柱への位置付け	柱④ 心の教育改革	
事業名称	若者の学びなおしと自立支援事業		担当課	生涯学習課
			当初予算額(千円)	13,280
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	11,752

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	【現状】 ◆ ニートや引きこもりがちな若者の増加 ◆ 自分の将来に夢が描けない若者の増加 ◆ 無職の若者の増加による、将来の社会不安定要素の増加 【要因】 ◆ 不登校、中学校卒業時の進路未定者及び高校中退者率が高いなど、学校教育でつまずく生徒が多い。 ◆ 雇用環境の悪化により、若年者の就労条件が厳しくなった。 ◆ ニートや引きこもりがちな若者たちの総合相談窓口が不足している。	ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 平成17年度国勢調査や平成21年度「生徒指導上の諸問題に関する調査」結果のデータを基に分析し、把握している。 イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 本県の不登校及び高校中退者の出現率、若年無業者比率を踏まえた事業であり、要因を十分分析し、特定している。
		◆ 「若者はばたけネット」による新規登録者数は、年間50人を目指す。 ◆ こうち若者サポートステーションの新規登録者数は、月10人を目指す。 ◆ 高知黒潮若者サポートステーションの新規登録者数は、月8人を目指す。 ◆ 若者サポートステーションにおける進路決定率は、40%を目指す。 【検証(比較)方法】 ◆ 若者サポートステーションの実績報告書により確認する。	ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 目標数値はやや高めであるが、達成可能であると判断している。 エ 目標は達成されたか (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/>) ◆ 「若者はばたけネット」による公立高校中退者の新規登録者数 26人 ◆ 新規登録者数 ・こうち若者サポートステーション 6.9人/月 ・黒潮若者サポートステーション 7.5人/月 ◆ 進路決定率26.8%、継続利用者の決定率30.7% (H21.7月開所以来の進路決定率35.3%、継続利用者の決定率51.8%)
③	実施内容(Input・Output)	◆ 若者サポートステーション事業を高知県社会福祉協議会とNPO法人青少年自立援助センターに委託する。 ◆ こうち若者サポートステーションにおいて支援プログラムを実施し、利用者全員の意識等の変容に関する調査を行う。 若者サポートステーションへの誘導の働きかけ ◆ 中途退学の報告のあった高校を訪問し、中途退学者に対して若者サポートステーションの紹介、登録を促す手紙の郵送を依頼する。 若者サポートステーションスタッフと高校教員と一緒に家庭 ・訪問を行う。 フォーラム(関係機関連絡会、実務者会議)を開催する。	オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 支援プログラムを97人に延べ1,733回実施した。 ・社会性の向上51.1% ・進路に関する行動変容率の向上88.2% ・進路決定率63.2% ◆ 個人情報票の提出の依頼と中学校卒業時の進路未定者や中途退学者の状況把握のために学校を訪問した。(延べ43校) ◆ ブロック別協議会の実施(5箇所:安芸市、南国市、高知市、須崎市、四万十市) ◆ フォーラム・相談会等の実施(3回:高知市)
総合評価と今後の方向		目標達成度 C 「No」を選択した項目 エ 【総合評価】 ◆ 若者サポートステーションを核とした個別相談、就学及び就職に向けた支援は有効に機能している。 ◆ 個人情報の取扱の整備により、中学校卒業時及び高校中途退学時進路未定者の個人情報を、本人や保護者の同意を得なくても若者サポートステーションへ提供できるようになり、学校でつまずいた生徒を対象にした学校教育から継続した支援が機能し始めた。	【今後の方向】 ◆ 高校中退時の進路未定者を確実に若者サポートステーションにつなぐために、高校との連携を強化する必要がある。 ◆ 高校訪問だけでなく、多様な機会を活用して、管理職だけでなく教職員への理解と協力を促進する。 ◆ 支援スタッフの家庭訪問により、中退者との関係性を高めるとともに、本人だけでなく保護者にも次の進路に向けた具体的な行動を促進する。 ◆ 支援プログラムの他、就学希望者への学習支援を強化する。